

協働によつて学園が大きく飛躍する 1年となることを願つて

福岡歯科大学 大学長

石川 博之



新年明けましておめでとうございます。

今年のお正月三日は、たいへん穏やかな天候に恵まれて、教職員の皆様におかれましては、ご家族とともに良い新年をお迎えになったことと思います。

今年の1月ですが、福岡歯科大学6年生の卒業試験を皮切りに、8大学戦略的連携支援事業の学長・学部長会議と口腔医学シンポジウムの開催、福岡歯科大学と福岡看護大学合同での大学入試センター試験の実施、その後は病院機能評価の受審を控え、例年以上に予定の多い新年を迎えました。各部署での皆様方のご尽力、ご協力により、1年の順調なスタートがきれますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、平成20年度から福岡歯科大学が代表校となり進めてきました文部科学省・戦略的連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学歯学教育体制の再考」は、この3月で当初計画の最終年度が終了します。これまで口腔の健康から全身の健康を守るといふ視点で、時代の変化に対応した歯学教育の確立を目指して参りました。その次のステージとして、口腔医学の地域社会への展開を目指して、昨年は福岡歯科大学および福岡医療短期大学とともに、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に申請を行いました。その結果、2大学ともに採択となり、現在事業を開始したところです。

これらの事業では、高齢者ヘルスプロモーションと地域包括ケアへの口腔医学の展開、口腔機能向上による健康長寿社会の実現を目指して、福岡歯科大学、福岡医療短期大学、福岡看護大学の連携した調査研究が企画されており、すでにそのいくつかは開始しております。また、学園の地域連携活動におきましても、最近は地域連携センター運営会議を中心に、3大学、医科歯科総合病院、サンシャインシティでの意見交換や活動の連携が進められております。今年も、教育、研究、医療面でさらに連携が進み、学園全体のブランドとして口腔の健康から全身の健康を守る医療・保健・福祉が大きく推進されることと思います。

協働という言葉がありますが、これは複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動することをいいます。今年の学園の発展には、まさに協働の考え方が大切になってくると思います。

さて、今年の干支は戌戌ということで、一方では草木が枯れて、一方では草木が生い茂って盛大になるといふような、まさに変化の年だそうです。次のステップ、次のステージに移っていくような年ともいわれています。皆様方のお仕事がすばらしいステージに進まれ、またそのことが皆様と学園の大きな飛躍につながる1年となることを願ひまして、年頭のご挨拶といたします。